

交通安全の輪を広げよう

●毎朝の指導で●

通学時、子供たちへ交通安全の指導をしているのは、地域で交通ルールの指導や啓発を行っている交通安全指導員の皆さんです。

真駒内に住む佐々木勉さんは「交通事故は絶対にあってはならない」と三十五年以上も子供たちの通学を見守っています。子供たちとあいさつを交わしながら、時折赤信号を渡ろうとする生徒に注意します。「遅刻しそうになると赤信号や、横断歩道以外の場所を渡ろうとする子が出てきます。あと五分家を早く出れば、危険な行為をしないはずですよ」と佐々木さん。

また、交通量の多い道路で赤信号を無理に進入してくる車がないよう、車にも注意を促します。「歩き慣れた道にも危険は潜んでいます。子供たち



ちだけでなく、ドライバーにもしっかりと交通ルールを守ってもらいたい」と話し、今日も通学路で子供たちを見守っています。

●地域の呼び掛けで●

地域では、各地区の交通安全運動推進委員会や交通安全母の会が警察や学校、PTAなど関係機関と協力し、さまざまな交通安全運動に取り組んでいます。

各交通安全運動推進委員会で、季節ごとの交通安全全週間を行う街頭啓発をはじめ、工夫を凝らした啓発活動で交通安全を呼び掛け、地域の皆さんの意識向上に努めています。

また、交通安全母の会は「交通安全は家庭から」を合言葉に、毎年四月、新一年生へ交通安全の願いを込めた手作りマスコットを贈るなど、心温まる活動を行っています。

こうした活動に参加している皆さんは、「地道な活動を続けることで、たくさんの方に交通安全に関心を持



▲南沢地区の巨大雪だるま。交通安全などを呼び掛けました

ってもらいたい。そして少しでも交通事故が減ってくれば」と、交通安全運動の輪を広げています。

●交通安全教室で●

南区交通安全運動推進委員会では、保育園、幼稚園、小学校や町内会、老人クラブなどの団体を対象とした交通安全教室を開催しています。人形やイラストを用い、年齢や季節に応じた内容で分かりやすく交通ルールを説明。また、老人クラブなどで交通安全指導や啓発を行うシルバリーダーの育成なども行っています。

同推進委員会の黒木克己事務局長は「四月になると、これまで幼稚園児だった子供たちも一年生になり、一人で通学するようになります。周囲の大人がしっかりと交通ルールを教え、見守っていかねければなりません。地域一丸となって事故防止に努めることも必要です」と話します。



▲幼稚園での交通安全教室「雪山で遊んではいけませんよ」

交通安全教室のお問い合わせ・お申し込み先

南区交通安全運動推進委員会
☎582-2400 内線650

交通事故相談窓口

万一、交通事故に遭ったり、起こしてしまった場合、専門の交通事故相談員が事故の示談や賠償請求などについての相談をお受けし、アドバイスします。

- 南区役所 1階相談コーナー
毎週火曜日 午前9時30分～午後4時
- 市役所（中央区北1条西2丁目）1階 市民の声を聞く課
毎週月曜日～金曜日 午前9時30分～午後4時

交通事故は決して人ごとではありません。ちよとした不注意や無理な行動が悲惨な交通事故を招きます。事故に遭ってから、事故を起こしてからでは遅いのです。

「自分には無関係」という意識を改めて、ドライバーも歩行者もお互いに交通ルールを守り、思いやりとゆとりを持った行動を心掛けることが交通事故を防ぐ第一歩ではないでしょうか。

